

受付	令和 5年 11月 29日
	午前・午後 9時 51分

一 般 質 問 通 告 書

令和 5年 11月 29日

高山村議会議長 西原 澄夫 様

高山村議会議員 梨本 進

質問事項	質問の趣旨
<p>1、山田牧場をグリーンシーズン営業で通年型リゾートへの展望</p>	<p>標高 2,076mの笠ヶ岳の南西斜面に広がる山田牧場は、標高 1,500m～1,700mの位置にあり、明治 35 年およそ 120 年前に 160ha の広大な公共育成牧場として開場され、5 月中旬～10 月中旬までは自然を生かした牛の放牧がされてきた。しかしながら畜産農家の廃業や規模縮小に伴い、放牧頭数が大幅に減少している中で、放牧事業に携わる方々は村の大切な牧場資源を守るため、他県からの放牧誘致などで事業運営をされている。</p> <p>一方、ウインターシーズンのスキー場開発は、1962 年（昭和 37 年）にゲレンデとリフトが整備され、自噴する温泉源泉の引湯により奥山田温泉としても賑わいを見せた。1968 年から南志賀開発（株）が長年スキー場経営をしてきたが、2019 年～2020 年にかけて（株）山田牧場が経営を引き継ぎ、高山村唯一のスキー場とリフトの運営を担い、現在も継続されている。</p> <p>平成元年～令和元年の約 30 年間で、放牧数、スキー場来場者数、及び温泉営業のホテル、旅館、ロジ軒数共に、およそ 1/3～1/4 まで大幅に減少してきた。全ての施設の老朽化が進行する中で、山田牧場存続の危機である。</p> <p>今こそ山田牧場再活性化の展望を示す時ではないか。温泉施設の修繕やリフト設備の更新も喫緊の課題でもあるが、それと同時に将来の発展性を作り出すことが重要である。</p> <p>山田牧場をグリーンシーズン化することにより、リフトの通年営業なども可能となり、自然を取り入れた様々なレジャーが生まれ、その活用が期待できる。</p> <p>山田牧場のスキー場エリアを含むグリーンシーズン営業に向けて、村行政は各団体や関係者との積極的な調整を図ることを求める。</p>
質問要旨と質問	
<ol style="list-style-type: none"> 1、放牧エリアと観光エリアの棲み分けは可能か。また公共育成牧場として今後の放牧事業について、村はどのように考えているか。 2、ゲレンデのグリーンシーズン営業で、リフトの通年運行も可能となり、様々な高原のレジャーが提案され、幅広く楽しめると思う。ゲレンデの通年活用についてどのように考えているか。 3、標高を生かした高地トレーニング用のランニングコースやグラウンドなどの施設を整備することで、スポーツ合宿など温泉付きの滞在型宿泊が見込めると思うが、そのような構想についてどう考えるか。 4、山田牧場は高山村の一番東の奥にある広大な自然資源であり、永く営んできた歴史ある観光資源でもある。スキーリフトや温泉など強みを生かした通年型リゾートへの展望を示す時と考えるが、村の考えを問う。 	

※ 質問の趣旨・要旨は、わかりやすく記載するようご配慮ください。